

## 2023年度事業報告書

2023年4月1日から2024年3月31日まで

(法人の名称:特定非営利活動法人わっこ谷の山福農林舎)

### 1 事業実施の方針

- ・ 地域資源(農業・林業・福祉・教育・エネルギーなど)を横方向に結び、誰もが自分の力を発揮できる暮らしやすい地域、かつ持続可能な社会をつくることを目的とする。
- ・ 障がいのある人、生活困窮者の就労支援、および相談支援、生活支援を行う。
- ・ 遊休荒廃地を利用した農業振興を推進する。
- ・ 木質バイオマスボイラ運用に伴う松枯れ材のエネルギー活用を図る。
- ・ 自然体験を通じた交流人口増加のための取り組みを行う。

### 2 事業の実施に関する事項

#### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の 実施日時 (B)当該事業の 実施場所 (C)従事者の 人数	(D)受益対象 者の範囲 (E)人数	事業費の 金額 (単位:円)
社会福祉を目的とした事業の企画・運営事業	引きこもり者、不登校者、発達障がい者等を対象とした相談、居場所支援、余暇支援、当事者活動支援	(A) 週5回 (B) 筑北村 (C) 4名	(D) 筑北・麻績村民 (E) 89名	3,884,388円
障害のある人などの就労支援および雇用促進、福祉就労のための事業	認定就労訓練事業	本事業年度は 実施無		
障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業	就労継続支援A型・B型事業 地域活動支援センター事業 自立生活援助事業	(A) 通年 (B) 筑北村 (C) 8名	(D) 筑北・麻績村 (E) 50名	15,826,455円
障害者総合支援法に基づく相談支援事業	特定相談支援事業・一般相談支援事業	(A) 通年 (B) 筑北村 (C) 3名	(D) 筑北・麻績村・生坂村・松本市・安曇野市 (E) 60名	2,744,429円
児童福祉法に基づく障害児相談支援事業	障害児相談支援事業	(A) 通年 (B) 筑北村 (C) 3名	(D) 筑北・麻績村 (E) 5名	206,023円

介護保険法に基づく居宅介護支援事業	居宅介護支援事業	今事業年度は実施予定なし		
森林の利活用推進事業	支障木、枯れ木等を利用した薪販売事業	(A)通年 (B)筑北村 (C)14名	(D)筑北村・麻績村、近隣自治体住民 (E)6,500人	4,880,749円
森林の利活用推進事業	松枯れ木伐採及び作業道の整備等	(A)通年 (B)筑北村・麻績村 (C)14名	(D)筑北村・麻績村村民 (E)6,500人	2,606,655円
自然体験・環境教育事業	自然体験・環境教育の実施	(A)通年 (B)国内 (C)13名	(D)国内 (E)90名程度	50,000円
観光・地域振興に関する事業	地域の困りごと(草刈・公園管理・園場の整備・空き家管理等)の代行サービス	(A)通年 (B)筑北村・麻績村内 (C)15名	(D)筑北・麻績村村民・近隣自治体住民 (E)141名	3,787,691円
	自然体験を通じた交流人口増加のための取り組み	本事業年度は実施なし		
	遊休荒廃地における古代表・ケールおよび桜花木・りんごの生産、加工 建築用材の生産	(A)通年 (B)筑北村・麻績村 (C)15名	(D)地権者 (E)16名	1,133,445円
農林業の振興に関する事業		本事業年度は実施なし		
本条第1号から第10号に係る研究事業	農林業・社会福祉活動に関わる将来のための研究事業	本事業年度は実施なし		
本条第1号から第10号に係る人材育成のための教育研修事業	技術研修等	(A)通年 (B)筑北村 (C)4名	(D)県内および全国 (E)200名	103,094円
本条第1号から第10号に係る普及啓発、政策提言、コンサルタント事業	講師派遣 コンサルタント派遣	(A)通年 (B)筑北村 (C)4名	(D)県内および全国 (E)200名	100,000円
その他第3条の目的を達成するために必要な事業	農林業・福祉・教育・観光などの連携に関わる事業	本事業年度は実施なし		

## 2023年度（特非）わっこ谷の山福農林舎 事業報告書

### 1. 期間

2023年4月1日～2024年3月31日

### 2. 重点目標

- ① 安全管理と作業適正化・効率化
- ② 地域用材販売
- ③ 農業生産再構築
- ④ 雇用型事業所開設
- ⑤ 筑北三村基幹相談支援センター
- ⑥ ふくまあるコンテンツの充実

### 3. 2023年度事業概要と総括

法人開設5年目となる今期は、福祉事業部門で就労継続支援A型事業所を設立し、法人開設前から一つの目標としてきた「雇用型事業所」の開設が実現、軌道に乗せることができた。又、地方都市とは立地や人口動態が異なる筑北三村（生坂村・麻績村・筑北村）における福祉資源開発を着実に前に進めるための「自立支援協議会事務局、および基幹相談支援センター事業」は初年度運営を関係者の一定の評価の元、終えることができ、相談支援件数も26%増加した。「ふくまあるコンテンツの充実」については個別支援を中心に一定の成果が見られ延利用人数は19%の増加が見られた。

農業部門は赤松圃場の事業再構築を目指したが、十分な結果は得られず、来期へ課題持ち越しとなった。りんご栽培では「信州環境にやさしい農作物認証」を取得、今期は1.9トンの収量があり、生食用のりんごは早い時期に完売となった。又、建築用材の買取・発注や精油・蒸留水販売も増加傾向にあり新たな事業への一步を踏み出す一年となった。

林業部門では独立開業をした協力事業者が元請けをする状況となり、売上げは大きく減少したが、連携を通じておこ派遣や集材を中心とした施業体制が徐々に整いつつある。薪ボイラ運用はオペレーションミスによる小火が5月にあり、約3か月間運用が休止したことにより薪の使用量は減少したが、安全対策を再徹底し、9月に運用を再開している。

11月に「ディスクバー農山漁村の宝」アワードを授賞、今までの取り組みが評価されたと共に、教育連携事業収入は前年度の3倍となり次期からはロゲイニングや農村体験に関する新事業もスタートすることとなった。

2月初旬に能登半島の就労支援施設、グループホームへ応援職員2名を派遣、約1週間滞在し、当地の施設支援にあたった。わっこ谷での有事の際の対応について見識を深めることができた。

経営面では全体の収入としては減少したものの、支出もその分大きく減ったことにより利益幅、労働生産率は向上が見られる。又、事務所を購入したことにより物件利用の自由度が増し、来期以降の事業展開に関して幅の拡がりを持つ状況となった。

### 4. 各事業（重点目標）の詳細

- ① 安全管理と作業適正化・効率化
  - ・ 安全衛生教育は全12回実施、刈払機、薪割機、ボイラー運転等の講習会、KYTを定期的実施した。
  - ・ 作業効率化は土場の作業による区画化を行い、動線の効率化を図ることができた。
  - ・ 機器類の定期メンテナンスにより異常の早期発見を行う体制を整えると共に報告や情報共有を行った。
- ② 地域用材販売
  - ・ 製材場の拡張を行い、用材や道具類を保管する場所を増築した。
  - ・ 週1～2回の定期的な製材作業を通じて本製材前の商品（柱・厚板・野地板・間柱）の在庫がストックできる状態となった。
  - ・ モニター価格にて平角、柱、野地板、間柱等を出荷し経過観察を行っている。
- ③ 農業生産再構築
  - ・ 継続検討を行ったものの今期の事業実施には至らなかった。来期の方向性は定まったので取り組みを進めていく。
- ④ 雇用型事業所開設
  - ・ 5月より雇用型事業所を開設し1名を雇用。B型利用者と作業のすみ分けを図り、研修機会等を提供した。次年度1名雇用ができる体制とするためのB型工賃の見直しを行い、最低賃金改定に伴う昇給を行った。
- ⑤ 筑北三村基幹相談支援センター
  - ・ 延69名からの基本相談を受けると共に地域自立支援協議会運営では全27団体、延238名の参画を得る中で地域課題の抽出、情報共有を行った。開始3年目の着地を目標に来期も取り組みを推進する。

⑥ ふくまあるコンテンツの充実

- 各メンバーの「好きなこと、やりたいこと」を中心に個別支援を展開した。当事者活動支援については独立グループの伴走が十分にできずに一年を終えることとなった。

5. 各事業の状況

□ 農業・林業・おてこ衆・教育連携事業

↓ 農業

・ りんご生産

高温が続いた一年だったため蜜の入り方が例年に比べて悪かったが収量は1.9トンあり、ネットショップ、直売所、マルシェ等でおおむね好評だった。新たな加工品目としてジャムを生産している。また温暖化対策として暑さに強い品種を30本定植した。

・ 花木生産

今年度も出荷するレベルには達せず出荷は見送ったが、来期は出荷の可能性が高まって来ている。

・ にんにく生産

病気が発生したことで全量出荷を見合わせた。来期からの生産を休止する。

・ ケール生産

圃場の移動を行い、品質管理を徹底した結果、蛾の発生を防ぐことができたがその分手数がかかる結果となった。来期から生産を休止する。

・ えごま、そば等

新たな品目にチャレンジしたが獣害にあい収穫まで至らず。再考が必要。

↓ 林業

・ 伐採

元請けとしての伐採件数は60%減少したが、おてこ派遣数は増加し、集材を中心とした連携業務体制が整ってきている。

・ 木の駅

針葉樹188㎡、広葉樹62㎡の出荷があり原木の確保を安定的に行うことができた。

・ 薪販売

前年度に比べて収入が40%増加、販売延件数は5%増加した。薪保管のためのウッドバックを購入し生産の効率化に向けた取り組みを行った。

・ 薪ボイラ運用

5月にオペレーションミスによる小火を出し、3か月間運用が停止した。行政と協議の上再発防止策を徹底し、9月より運用を再開、結果21%の減収となった。

・ 精油

商品のリニューアルを目標としたが実現に至らず販売数も前年を大きく割り込んだ。来期への課題として持ち越し形となる。

↓ おてこ衆

前年度より受注数は9%減少(116件)となり、収入も12%減少した。理由としては大口の行政委託の草刈りエリアの見直し等の理由が考えられる。

「田んぼを預かってほしい」との依頼が住民から多数寄せられているため2025年度以降稲作を受託できる体制について検討を進めていく。

↓ 教育連携事業

視察、実習、講演会受入れ数は2倍に増加、福祉計画アンケート作成業務や福祉系実習生の受入れにより前年度に比べて3倍以上の収入となった。

任意団体CCEより事業継承した「ほっとステイ」「観郷ウォーク」をリニューアルして来季より中学生の移動教室を対象とした新規事業受入れに対する準備を行った。

□ 福祉事業

↓ 就労継続支援A型/B型事業

・ 農林業・代行サービス・ボイラ運用

・ 1名が企業に就職。実利用人数は7名程度と微減している。

2023年度延利用者	2022年度延利用者	2021年度延利用者	2020年度延利用者
1,580名	1,579名	1,432名	1,249名

↓ 地域活動支援センター事業

・ 働く準備が整っていない利用者に対して居場所を提供、当事者支援・軽作業・レクリエーション、個別プログラムを実施

・ 前年度に比べて延利用人数が19%増加している。

2023年度延利用者	2022年度延利用者	2021年度延利用者	2020年度延利用者
1,167名	980名	922名	541名

↓ 相談支援事業

- ・ 前年度に比べて83%増加し、事業開始以来最高件数となった。基幹相談支援センターを受託にしたことによる影響が大きくみられる。

【計画相談】※延利用者

2023年度	2022年度	2021年度	2020年度
178名	97名	119名	158名

【一般相談（移行・定着）】※延利用者

事業	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度
地域移行	7名	6名	10名	14名
地域定着	30名	48名	36名	52名

↓ 自立生活援助事業

- ・ ひとり暮らし、もしくは家庭での支援体制が十分でない利用者への支援
- ・ 前年度に比べて利用者数が66%増加。計画相談と同様に基幹相談支援センター受託の影響がうかがえる。
- ・ 契約者：15名

2023年度延利用者	2022年度延利用者	2021年度延利用者	2020年度延利用者
139名	96名	107名	102名

↓ 移動支援支援事業

- ・ ニーズはあるが、現場対応が追い付かず支援内容が不十分であったことから延時間数は前年比20%減少している。
- ・ 登録者4名

2023年度延利用者	2022年度延時間	2021年度延時間	2020年度延時間
371時間	460時間	372時間	48時間

↓ 自発的活動支援事業

- ・ 補助事業4年目、当事者グループが独立運営を開始し、法人は事務局としてバックアップを行う予定だったが、計画づくりや会計等の事務局機能を果たすことが出来ずに一年が過ぎていく。
- ・ 来季は障がい特性に応じた家族会の立ち上げをサポートする。
- ・ 普及啓発活動として意見交換会、講演会を開催。

【内容】※（）内は参加者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月
花見外出(8)	卓球(8) 善光寺(3)	マレットゴルフ(8)	カラオケ(10) 美ヶ原(3)	BBQ、流しそうめん(26) そば・ゼリーづくり(4)	ボウリング(5) マレットゴルフ(2)

10月	11月	12月	1月	2月	3月
バドミントン(7) 聖湖散策(7)	イオンモール(7) 国営アルプスあづみの後援(3)	モルック(19)	松本市立博物館(2)	新年会(8)	意見交換会(22) 交流会(3)

□ 理事会等

日付	項目	内容
5/23	内部監査①	2022年度事業報告・決算
5/26	第1回理事会	2022年度事業報告・決算
5/26	通常総会	2022年度事業報告・決算
10/16	内部監査②	上半期監査

10/18	第2回理事会	上半期報告・就業規則一部改訂・役員改選
3/22	第3回理事会	2024年度事業計画等

- 補助事業・助成金等  
本年度は大きな補助事業、助成金の利用はなかった。

月	補助事業等名	金額	詳細
1月	赤い羽根共同募金	¥100,000	地域活動支援センター備品類
2月	新型コロナウイルス補助金	¥92,000	福祉施設向け助成金

## 6. 出来事

日付	内 容	詳 細
5/22	内部監査	島田頼信氏
5/24	地域自立支援協議会発足式	筑北村本城多目的ホール
5/26	第1回理事会・総会	2022年度事業報告・活動決算
6/5	取材受入れ	林材ジャーナリスト赤堀氏
6/11	日本地域福祉学会登壇	第37回大会@長野大学
6/22	長野大学講義	持続可能な人生をデザインしよう
6/29	長野大学FW	りんご摘果、カシス収穫、エゴマ作付け、蒸留水製造
8/21	社会福祉士実習生受入れ	24日間、2名、長野大学社会福祉学部
8/29	関東農政局視察受入れ	株)インサイト 普及啓発推進事業、3名
9/1	聖南中学校総合学習受入れ	古代麦生産について
9/2	居住支援イベント開催	「障がいがあってもずっと村に住み続けたい」。参加者24名
9/25	長野大学FW	2,3年ゼミ生受入れ
9/25	大正大学インターン受入れ	卒業研究のため3日滞在、1名
10/11	生活支援担い手養成講座登壇	軽井沢町社協主催
10/17	事業所実地指導	就労継続A・B型、地域相談・自立生活援助事業
10/20	株)ローカルクラフト見学	南相木村、桐原満氏
10/23	新潟青陵大学インターン受入れ	コミュニティビジネス実習、2名、1週間滞在
10/27	日本橋中学校打合せ	2024年度ほっとステイちくほく打合せ
10/31	きささげ収穫	聖南中学校生参加
11/8	消防立ち入り検査	麻績消防署
11/10	ディスカバー農山漁村の宝授賞	関東農政局選定
11/11	里山シンポジウム参加	後援、木曜会主催
11/14	麻績村長意見交換	村施設建設に係る意見交換
11/15	事業所監査	筑北村あんしんネットワーク事業
12/13	筑北三村地域自立支援協議会視察	長野市森と木、小諸市小諸学舎見学。8名
12/19	長野大学講義	非営利事業論、80名
12/22	ディスカバー農山漁村の宝授与式	本城公民館にて
12/22	地域自立支援協議会全体会開催	本城多目的ホールにて
12/27	武蔵野大学視察受入れ	教員、事務員、計2名
1/10	視察受入れ	森のエネルギー研究所
1/17	視察受入れ	一社)HOLUHOLU 他3名

1/25	視察受入れ	関東農政局、5名
1/26	基幹センター評価	運営評価
2/5	能登半島災害派遣	中央センター事業、福祉施設派遣、2名
2/9	障害福祉計画策定委員会出席	筑北村
2/13	社会福祉士実習生受入れ	8日間、2名、2週間滞在
2/15	あづまやタイム講師	聖南中学校、スペルト小麦
3/4	精神保健福祉士実習生受入れ	8日間、1名、2週間滞在
3/9	フォーラム登壇	群馬県みどり市「地域内エコシステム」構築
3/16	自発的活動支援講演会	22名参加
3/18	農福連携推進フォーラム登壇	さいたま市
3/22	第3回理事会	2023年度補正予算、2024年度事業計画等
3/26	地域自立支援協議会全体会	令和5年度報告、令和6年度事業計画
3/27	障害福祉計画策定委員会	筑北村
3/29	障害福祉計画策定委員会	麻績村

## 7. 数値

### ① 素材生産、請負業務等の状況

項目	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度
薪販売	63件	57件	40件	36件
ボイラ薪製造	67,421 kg	95,031 kg	76,282 kg	43,984 kg
木の駅集荷	250 m <sup>3</sup>	147 m <sup>3</sup>	76.8 m <sup>3</sup>	144 m <sup>3</sup>
圃場整備	78件	85件	58件	75件
竹林整備	3件	2件	0件	2件
伐採	17件	47件	33件	42件
伐採補助	21件			
用材販売・製材受託	12件	10件	8件	6件
庭木剪定	19件	16件	6件	34件
農林作業補助	45件	66件	19件	16件
公園管理業務	10件	9件	9件	9件
雑工事	9件	12件	5件	3件
古代麦収穫	0 kg	0 kg	600 kg	252 kg
ケール収穫	2529 ケース	1554 ケース	2621 ケース	
精油・蒸留水販売	75件	28件	1件	
農作物販売	142件	109件	17件	
りんご収量	1,900 kg	1,100 kg		
きささげ収穫	85 kg	188 kg		137 kg
視察・実習受入れ	14件	7件	7件	7件
講演会・講義等	10件	8件	10件	4件

### ② 雇用者・関係事業者数

・ 常勤5名、パート7名、日々雇入2名、業務委託3名、業務連携5者

2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
22名	17名	14名	13名	10名

③ 福祉就労者数

障害種別	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
知的障がい	4名	6名	6名	5名	5名
精神障がい	7名	11名	7名	5名	3名
引きこもり者	7名	3名	4名	3名	1名
合計	18名	20名	17名	13名	9名

・ 企業就職者：1名

④ 会員数

種別	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
正会員	23名	22名	23名	17名	14名
準会員	7名	4名	4名	6名	18名
賛助会員	37名	39名	34名	65名	53名
賛助会員(団体)					1者
合計	67名	65名	61名	87名	86名

⑤ 広報(フェイスブック)

項目	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
投稿数	82件	100件	63件	81件	66件
オーディエンス (インスタグラム)	492名	477名	426名	333名	228名

項目	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度
投稿数	84件	100件	74件	92件
オーディエンス	369名	274名	204名	120名

⑥ 福祉事業利用者数

事業	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度
就労継続支援B型	7名	8名	9名	7名
特定相談支援	55名	48名	44名	55名
自立生活援助	15名	9名	10名	10名
一般相談支援	7名	5名	8名	6名
地域活動支援センター	28名	28名	22名	18名
移動支援	4名	6名	5名	4名
あんしんネットワーク	8名	4名	5名	0名
障害区分認定調査	0名	0名	17名	5名
合計(重複含む)	124名	108名	120名	105名

⑦ 事故報告

・ 事故総数 11件

日付	事故名	内容
4/21	うるしかぶれ	漆と分からず玉切りして被災
5/22	ボイラ室ボヤ	ボイラ上蓋を閉められず室内延焼
5/25	車両事故	電柱ポールに社用車を接触、自損、物的被害なし
6/21	光ケーブル断線疑い	伐採作業後にケーブル断線を発見。確認不足
6/21	売上計上間違い	販売会での売上計算の間違い、企画者より指摘
6/30	車両事故	壁にライトを接触、自損、物的被害なし
8/2	請求書誤送	施主を間違い請求書誤送
9/8	領収額不足	燃料費領収額が不足
10/26	見積り約束忘れ	見積り約束を失念
2/1	怪我	丸太と機械の間に指を入れ出血
2/5	車両事故	積雪時国道でスリップ。土手にバンパーをぶつけ損傷

⑧ 苦情・要望等報告

日付	苦情名	内容
7/10	SNS 写真掲載	本人の絵画を無断で SNS に掲載。本人より苦情

⑨ メディア等掲載

日付	内容	詳細
5/27	市民タイムス	地域自立支援協議会記事
6/30	信濃毎日新聞	長野大学 F W
8/26	信濃毎日新聞	9/2 (土) 居住関連イベント告知
9/26	信濃毎日新聞	9/25 長野大学 F W
9/28	市民タイムス	9/25 長野大学 F W
11/1	季刊地域	ゆるくらジャーナル
12/12	市民タイムス	坂北郵便局絵画合同展示会
12/29	市民タイムス	ディスカバー農山漁村の宝授賞
1月	いきいき信州の森	(一社) 林業コンサルタント協会 55 周年記念
2/15	ちくほく地域だより	ディスカバー農山漁村の宝授賞
2/15	信濃毎日新聞	能登半島地震支援
2/23	市民タイムス	わがまち SDG s 精油
3/27	市民タイムス	意見交換会
3/31	MG プレス	意見交換会

8. 決算 (別紙参照)

9. 事業活動の様子





さんふじ (自信作) 約5キロ(15~18個)【※収穫状況により、発送が遅れる場合がございます】

SOLD OUT







## 【福祉事業に係る情報公開】

### 1. 相談支援事業所

- ・ 事業所名：キノネアク相談所
- ・ 支援体制





修了研修名	修了者名	修了年月日
医療的ケア児等支援者養成研修	小泊実知	H30.12.10
医療的ケア児等コーディネーター養成研修	小泊実知	H31.2.26
地域移行・地域定着研修	小泊実知	H30.7.31
行動援護従業者養成研修	小泊実知	H30.12.18
相談支援従事者研修 統括・演習講師研修	和栗剛	R4 年度
相談支援従事者主任研修	小泊実知	R4.12.8
相談支援従事者現任研修	小泊実知 和栗剛 藤澤房枝	R4.3.16 R5.2.22 H30 年度
相談支援従事者初任者研修	井上愛友美	R5.9.28

### 2. 就労継続支援 A 型事業所（次項より）

## 就労継続支援 A 型事業所における地域連携活動実施状況報告書

事業所名	わっこ谷の山福農林舎	事業所番号	2012700130
住所	長野県東筑摩郡筑北村西条3846	管理者名	和栗剛
電話番号	0263-66-3035	対象年度	令和5年度

## 地域連携活動の概要

<p>&lt;活動内容&gt;</p> <p>①活動場所：筑北村村内</p> <p>②実施日程：通年</p> <p>③実施した生産活動・施設外就労の概要</p> <p>村営温泉施設の薪ボイラーの運用委託を村より受け、薪の製造、納入、オペレーション、メンテナンスを実施</p>	<p>&lt;活動の様子&gt;</p>  
<p>&lt;目的&gt;</p> <p>①地域連携活動のねらい</p> <p>地域の困りごと（松枯れ被害・灯油代の流出）の解決にA型事業所が取り組むことによりお互いに必要な関係性が構築できること</p> <p>②地域にとってのメリット</p> <p>地域内の松枯れ被害木や間伐材を燃料として使用することにより林地管理および地産地消のエネルギー供給体制が整うこと</p> <p>③対象者にとってのメリット</p> <p>地域内の林地整備が促進されることによる防災・減災ができるとともに灯油代として地域外に流出していたお金が地域の中で循環すること</p>	 
<p>&lt;成果&gt;</p> <p>①実施した結果得られた成果</p> <ul style="list-style-type: none"><li>年間6万ℓの灯油が削減され、約200トンのCo2排出が抑制された。</li><li>年間150㎡の木材が燃料として使用されることにより地域の環境保全に一定の効果が出ています。</li></ul> <p>②課題点</p> <ul style="list-style-type: none"><li>安全管理と機器更新の際の費用負担が今後の課題として考えられる。</li><li>灯油価格や80円/ℓ以下となると薪ボイラー運用のメリットが少なくなる可能性がある。</li></ul>	

## 連携先の企業等の意見または評価

2020年に薪ボイラーを村で導入し、運用を山福農林舎に委託している。開始当初は43トンの程度だった薪の消費量も2022年には95トン、2023年は67トン、原木換算すると120㎡～150㎡の間伐材や松枯れ材が再利用される。化石燃料は大幅に削減され、村の掲げる地球温暖化対策の推進に一翼を担うとともに、環境保全、就労継続支援（B型）また循環型社会の体制も徐々に構築できつつあることから、今後においても連携を継続していくとともに、官民が一体となり村で掲げる多数の課題を解決していきたいと考える。

連携先企業名	筑北村観光課	担当者名	山越玲彦
--------	--------	------	------



就労継続支援A型事業所におけるスコア表（全体）

事業所名	わっこ谷の山福農林舎
住所	筑北村西条3846
電話番号	0263-66-3035

事業所番号	2012700130
管理者名	和栗剛
対象年度	令和5年度

(I) 労働時間		
①1日の平均労働時間が7時間以上		65 点
②1日の平均労働時間が6時間以上7時間未満		
③1日の平均労働時間が5時間以上6時間未満	○	
④1日の平均労働時間が4時間30分以上5時間未満		
⑤1日の平均労働時間が4時間以上4時間30分未満		
⑥1日の平均労働時間が3時間以上4時間未満		
⑦1日の平均労働時間が2時間以上3時間未満		
⑧1日の平均労働時間が2時間未満		

①90点 ②80点 ③65点 ④55点 ⑤40点 ⑥30点 ⑦20点 ⑧5点

(II) 生産活動		
①過去3年の生産活動収支がそれぞれ当該各年度に利用者に支払う賞金の総額以上		40 点
②過去3年の生産活動収支のうち前年度及び前々年度の各年度における生産活動収支がそれぞれ当該各年度に利用者に支払う賞金の総額以上		
③過去3年の生産活動収支のうち前年度における生産活動収支のみが前年度に利用者に支払う賞金の総額以上	○	
④過去3年の生産活動収支のうち前々年度における生産活動収支のみが前々年度に利用者に支払う賞金の総額以上		
⑤過去3年の生産活動収支のうち前年度及び前々年度の各年度における生産活動収支がいずれも当該各年度に利用者に支払う賞金の総額未満		
⑥過去3年の生産活動収支がいずれも当該各年度に利用者に支払う賞金の総額未満		

①60点 ②50点 ③40点 ④20点 ⑤-10点 ⑥-20点

(III) 多様な働き方（※）		
①免許・資格取得、検定の受検勧奨に関する制度 就業規則等で定めている		5 点
②利用者を職員として登用する制度 就業規則等で定めている		
③在宅勤務に係る労働条件及び服務規律 就業規則等で定めている		
④フレックスタイム制に係る労働条件 就業規則等で定めている		
⑤短時間勤務に係る労働条件 就業規則等で定めている	○	
⑥時差出勤制度に係る労働条件 就業規則等で定めている		
⑦有給休暇の時間単位取得又は計画的付与制度 就業規則等で定めている	○	
⑧傷病休暇等の取得に関する事項 就業規則等で定めている	○	

（※）8項目の合計点に応じた点数 （注1）5以上：15点、4～3：5点、2点以下：0点

(IV) 支援力向上（※）		
①研修計画に基づいた外部研修会又は内部研修会 参加した職員が1人以上参加している	○	15 点
②研修、学会等又は学会誌等において発表 1回以上の場合	○	
③視察・実習の実施又は受け入れ いずれか一方のみの取組を行っている	○	
④販路拡大の商談会等への参加 1回以上の場合	○	
⑤職員の人事評価制度 人事評価結果に基づき定期に昇給を判定する制度を設け、全ての職員に周知している		
⑥ピアサポーターの配置 ピアサポーターを職員として配置している		
⑦第三者評価 過去3年以内の福祉サービス第三者評価を受審しており、結果を公表している。		
⑧国際標準化規格が定めた規格等の認証等 都道府県知事が適当と認める国際標準化規格が定めた規格その他これに準ずるものの認証を受けている	○	

（※）8項目の合計点に応じた点数 （注2）5以上：15点、4～3：5点、2点以下：0点

(V) 地域連携活動		
地域の事業者と連携した付加価値の高い商品開発、企業や官公庁等での生産活動等地域社会と連携した活動を行い、その結果をインターネット等により公表している	○	10 点

1事例以上ある場合：10点

(VI) 経営改善計画		
経営改善計画の提出を求められていない。または、経営改善計画の提出を求められているが、指定された期日までに提出している。	○	0 点

期限内に提出していない場合：-50点

(VII) 利用者の知識・能力向上		
前年度において、就労継続支援A型事業所等が利用者の知識及び能力の向上に向けた支援を行い、当該支援の具体的な内容を記載した報告書を作成し、インターネットの利用その他の方法により公表している。	○	10 点

1事例以上ある場合：10点

項目	点数
労働時間	5点 20点 30点 40点 55点 65点 80点 90点
生産活動	-20点 -10点 20点 40点 50点 60点
多様な働き方	0点 5点 15点
支援力向上	0点 5点 15点
地域連携活動	0点 10点
経営改善計画	0点 -50点
利用者の知識・能力向上	0点 10点

合計	140 点 / 200点
----	-----------------

就労継続支援A型事業所におけるスコア表（実績Ⅰ～Ⅳ、Ⅵ）

(Ⅰ) 労働時間

前年度（2023年度）

雇用契約を締結していた全ての利用者における延べ労働時間	1100時間15分	時間	雇用契約を締結していた延べ利用者数	214	人	利用者の1日の平均労働時間数	5時間8分	時間
-----------------------------	-----------	----	-------------------	-----	---	----------------	-------	----

(Ⅱ) 生産活動

会計期間（5月～3月）

前々々年度（年度）

生産活動収入から経費を除いた額	円	利用者に支払った資金総額	円	収支	円
-----------------	---	--------------	---	----	---

前々年度（年度）

生産活動収入から経費を除いた額	円	利用者に支払った資金総額	円	収支	円
-----------------	---	--------------	---	----	---

前年度（2023年度）

生産活動収入から経費を除いた額	317,897	円	利用者に支払った資金総額	1,067,893	円	収支	317,897	円
-----------------	---------	---	--------------	-----------	---	----	---------	---

(Ⅲ) 多様な働き方

前年度（2023年度）における取組（全体表「(Ⅲ) 多様な働き方」の各項目において「就業規則等で定めている」と選択した場合に記載）

① 免許・資格取得、検定の受検動奨に関する制度

① 免許・資格取得、検定の受検動奨に関する制度を定めている	<input type="checkbox"/>
-------------------------------	--------------------------

② 利用者を職員として登用する制度

② 利用者を職員として登用する制度を定めている	<input type="checkbox"/>
-------------------------	--------------------------

③ 在宅勤務に係る労働条件及び服務規律

在宅勤務に係る労働条件及び服務規律に関する制度を定めている	<input type="checkbox"/>
-------------------------------	--------------------------

④ フレックスタイム制に係る労働条件

④ フレックスタイム制に係る労働条件を定めている	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------

⑤ 短時間勤務に係る労働条件

⑤ 短時間勤務に係る労働条件を定めている	<input type="checkbox"/>
----------------------	--------------------------

⑥ 時差出勤制度に係る労働条件

⑥ 時差出勤制度に係る労働条件を定めている	<input type="checkbox"/>
-----------------------	--------------------------

⑦ 有給休暇の時間単位取得又は計画的付与制度

⑦ 有給休暇の時間単位取得または、計画的付与制度を定めている	<input checked="" type="checkbox"/>
--------------------------------	-------------------------------------

⑧ 傷病休暇等の取得に関する事項

⑧ 傷病休暇等の取得に関する事項を定めている	<input checked="" type="checkbox"/>
------------------------	-------------------------------------

(Ⅳ) 支援力向上

前年度（令和5年度）における取組（全体表「(Ⅳ) 支援力向上」の各項目に取組あり選択とした場合に記載）

① 研修計画に基づいた外部研修会又は内部研修会

① 研修計画を策定している	<input checked="" type="checkbox"/>
① 外部研修、もしくは内部研修を1回以上実施している	<input checked="" type="checkbox"/>
※研修名	粗飼料による羊の飼育
研修講師	石川県立大学
実施日・受講者数	3月11日 1人

② 研修、学会等又は学会誌等において発表

② 研修、学会等又は学会誌等において1回以上発表している	<input checked="" type="checkbox"/>
※研修、学会等名	日本地域福祉学会
実施日	6月11日
※学会誌等名	
掲載日	月 日
発表テーマ	

③ 視察・実習の実施又は受け入れ

③ 先進的事業者の視察・実習の実施している	<input checked="" type="checkbox"/>
もしくは、他の事業所の視察・実習を受け入れている	<input checked="" type="checkbox"/>
※先進的事業者名	(株) ローカルクラフト
実施日/参加者数	10月20日 2人
※他の事業所名	14件の視察・実習受け入れ
実施日/参加者数	通年 140人

④ 販路拡大の商談会等への参加

④ 販路拡大の商談会や展示会等へ1回以上参加している	<input checked="" type="checkbox"/>
※商談会等名	ノウフクショップ
主催者名	一般社団法人日本本基金
日時	11月11日～26日
内容	新宿マルイでの販売会と商談会

⑤ 職員の人事評価制度

⑤ 職員の人事評価制度を整備している	<input type="checkbox"/>
⑤ 当該人事評価制度を周知している	<input type="checkbox"/>
人事評価制度の制定日	年 月 日
人事評価制度の対象職員数	名
うち昇給・昇格を行った者	名
当該人事評価制度の周知方法	

⑥ ピアサポーターの配置

⑥ ピアサポーターを配置している	<input type="checkbox"/>
⑥ 当該ピアサポーターは「障害者ピアサポーター研修」を受講している	<input type="checkbox"/>
※配置期間	月 日～月 日
就業時間	
職務内容	

⑦ 第三者評価

⑦ 前年度末日から過去3年以内に福祉サービス第三者評価を受けている	<input type="checkbox"/>
※評価を受けた日	月 日
第三者評価機関	

⑧ 国際標準化規格が定めた規格等の認証等

⑧ ISOが制定したマネジメント規格等の認証等を受けている	<input checked="" type="checkbox"/>
※認証を受けた日	月 日
規格等の内容	信州環境にやさしい農作物認証

(Ⅵ) 経営改善計画

⑥ 指定庁者である都道府県（指定都市・中核市）へ、経営改善計画書へ提出した	<input type="checkbox"/>
※受理日	年 月 日